

2. 視点を反映させた学習指導案を分析する。

第2回総合研究会後、各部会から指導案を提出していただきました。その指導案を分析したところ、全27部会中16部会が学習指導案の本時案に視点を明示し、それを意識した研究授業とその後の協議が行われていました。

【「おおだて型学力」を鍛える視点が反映された場所をまとめた表】


示された箇所		A-1	A-2	T-1	T-2	TW-1	TW-2	合計
ねらい		8						8
授業展開	導入部	9		2				11
	展開部	1		3	5	8	6	23
	終末部		5	1	2			8
授業の視点		1				2		3
合計		19	5	6	7	10	6	53

※展開部の合計数が多いのは、学習活動と教師の支援の両方に視点が明示されているため。

アクションは主に授業展開に関わる項目です。A-1を意識して授業のねらいを構想し、A-2を意識して授業展開の中に振り返りや習熟の時間を設けます。シンキングは主に課題解決に関わる項目です。T-1は秋田県内で多く行われている課題解決型の授業に合致するものであり、A-1とも関わる項目です。T-2は課題解決に向けた支援を示していて、教師の支援の際に考慮すべき項目です。チームワークは主に学び合いの場面で考慮すべき項目です。そのため、授業の展開部にこの視点を明示している指導案が多かったです。TW-1は学び合いを通して課題を練り上げていくことを保障する項目であり、TW-2はその学び合いの具体的な形態やその基盤を示した項目です。この結果を授業展開に沿って整理すると以下ようになりました。

導入部	A-1	ゴールが明確なねらいの設定
	T-1	課題解決のための学習過程の工夫
展開部	T-2	課題解決のための時間・手立て・支援の保障
	TW-1	学び合う場の保障
	TW-2	学び合う学習形態の工夫
終末部	A-2	振り返り・習熟の場の保障

「おおだて型学力」の授業の実際は、先日配布した研究紀要「究」をご覧ください。



「おおだて型学力」を鍛える視点は、授業全体を網羅するものとなっています。授業を構想する際は、授業のそれぞれのポイントで上記の視点を意識することで「おおだて型学力」を鍛える授業づくりが一層推進されるものと思われます。

この視点は、次期学習指導要領に含まれるであろう「アクティブラーニング＝課題の発見・解決に向けた主体的・共働的な学び※」にも沿うものです。

※平成27年8月 中央教育審議会教育課程企画特別部会 論点整理より引用

3. 各部会の成果と課題を分析する。

次に、各部会の研究の成果と課題について分析します。分析対象は、2月に本研究会が発行した今年度の研究紀要「究」第40号です。各部会の成果と課題を項目に沿って整理すると以下の表のようになりました。

成 果	関連項目	課 題
○明確な課題設定による意欲の向上 ○子どもの言葉を生かした課題づくり	A - 1 A - 2	△ねらいに対する評価や見取りの方法 △効果的な振り返りのもち方
○学習展開や形態の工夫 ○子どもの実態に応じた教具の工夫	T - 1 T - 2	△課題発見につなげる教師の発問 △自力解決の時間保障と手立ての工夫
○学び合いの手立ての充実 ○学び合いへの理解	TW - 1 TW - 2	△解決に向けた学び合いのつなげ方 △個の考えを全体で共有化する手立て

[成果について]

明確な課題設定は、しっかりとした教材研究の上に成り立っています。夏休みの指導案検討会を教材分析に活用した部会もあったようです。シンキングに関しては課題解決に向かう学習展開や学習形態の工夫やICTの活用、チームワークに関しては話型の提示やハンドサインの活用、他者発表など学び合うための手立てが充実したことを成果として上げている部会が多くみられました。ハンドサインや話型は、小・中の連携も進んでいるようです。

今年度の「究」から、視点に関連する指導助言を抜粋してみました。

小学校国語部会(中学年)



「学び合いの形がしっかりと身に付いていた。リレー発表、ハンドサイン、反応も素晴らしかった。また、周りの児童の聞き方も温かく発言から気付きが生まれる学び合いであった。」

北教育事務所
鹿角出張所 指導主事
山口 史人先生

小学校理科部会



「前時の体験を基にした課題設定が行われていて、実感を伴った理解につながっていた。」

「個で考える時間が保障されていた。一人一人がじっくり考察できていた。」

北教育事務所
山本出張所 指導主事
大塚 孝樹先生

中学校社会科部会



「教師の話術に引き込まれた。行き詰まりを解消したり、方向を正したり、考えを深めたり、要点を押さえたり、切り返しの発問が吟味されている。」

北教育事務所
山本出張所 指導主事
佐藤 政彦先生

[課題について]

課題として多く上げられたのは、課題解決に向けた教師のコーディネートでした。学び合いをどのように本時のねらいに迫るものにしていくかは、教師が児童生徒の発言をどのようにつなげていくかにかかっています。中学校社会科部会の佐藤政彦指導主事の助言から、①学び合いの行き詰まりの解消②話合いの方向性の修正③要点の強化④課題を深める切り返しと、コーディネートの具体が垣間見えたような気がします。また、これ以外では、自分の変容に気付かせることができるような振り返りの在り方やどのように評価するかなどが課題として上げられました。

視点の明示にご協力くださった部会の皆様ありがとうございました。明示していただいたことで、「おおだて型学力」を鍛える授業の具体が見えてきました。各部会の授業改善は、視点を生かしながら着実に進んでいるものと思われまます。

今年度、本研究会の事業にご理解とご支援をいただきありがとうございました。

平成27年度 第2回 運営委員会の報告

2月10日(水)に、本校で第2回運営委員会が開かれました。そこでは、今年度の運営の振り返りと来年度の運営についての協議を行いました。運営委員会で話題になったことを以下にまとめました。

1 市教研テーマ及び年間事業計画について

- ・テーマは今年度を踏襲し、来年度の事業計画も承認。



平成28年	4月 4日〔月〕	会員名簿提出締め切り
	4月13日〔水〕	第1回総合研究会
	5月11日〔水〕	第1回運営委員会
	10月26日〔水〕	小学校第2回総合研究会
	10月28日〔金〕	中学校第2回総合研究会
平成29年	1月10日〔火〕	教科外・合同部会第2回総合研究会
	2月 7日〔火〕	第2回運営委員会

2 第1回総合研究会について

- ・各部会授業者ローテーションについて

ローテーションは来年度も継続。隔年開催の道徳・英語については教科化も控えているので新事務局に移行してから改めて協議する。

- ・運営委員の集合について

会場準備及び駐車場係として協力を要請する。

3 第2回総合研究会について

- ・各部会のワークショップにかかる費用について

研究会事務局には費用がないので、各部会で負担する。一例として、小学校家庭科部会は、以前から講師代・材料費などを会員の自費でまかなっている。

4 その他

各部会の運営をスムーズにするために、4月の部会で世話人の役割分担〔部会の司会、第2回総合研当日の記録、紀要の執筆〕を明確にする。